

IFRS アップデート

2010年第4四半期



William Hines
FSA, MAAA

Henny Verheugen
AAG

いよいよ2011年がそこまできています。IASB/FASB共同保険プロジェクトの新たな章が完結しました。コメント期間が終了し、円卓会議が行われました。両審議会は、今後それぞれのペーパーに対するコメントを検討し、今年半ばまでにプロジェクトを完結させるという目標を念頭におきつつ様々な課題について再審議する予定です。本紙では、プロジェクトの中で結論に至っていない主要事項のサマリーとともにプロジェクトの現状および今後想定されるステップについてアップデートします。

プロジェクトの現状

国際会計基準審議会 (IASB) は、2010年7月に保険契約に対する会計基準の公開草案を公表しました。一方、米国財務会計基準審議会 (FASB) は、2010年9月に同じトピックスに関し独自のディスカッション・ペーパーを公表しました。コメント期間は、それぞれ11月と12月に終了しました。

両審議会は、コメント期間中に、各組織の審議会委員およびスタッフ数名が業界関係、アクチュアリー関係、会計関係の団体を訪問して課題を議論するアウトリーチ・プログラムを実施しました。また、両審議会は、特定の課題をさらに話し合うため、構成員との円卓会議を3回 (ロンドン、東京、コネティカット州ノーウォーク) にわたり開催しました。

両審議会は、12月にコメントのレビューを開始し、2011年の上半期いっぱい再審議を続ける予定です。両審議会のゴールは、最終版IASB基準及びドラフトFASB基準を2011年6月末までに承認することと表明しています。

残されている最大の課題

長期保険契約に関して残されている最重要課題として、以下があります。

- 収益のボラティリティ
- 新契約費の取り扱い
- 測定に含むマージンは1つか2つか
- 収益の表示

収益のボラティリティ

長期契約の負債は、将来のキャッシュフローの期待現在価値に実際のキャッシュフローが見込みキャッシュフローを超過するリスクに対する調整、および、契約開始時に発生するあらゆる利益を除外するための残余マージンを加算したものと等しくなります。IASBの公開草案では、新契約のみが残余マージンを含むこととされましたが、今では、保有契約についても含むことが想定されています。割引率は、負債キャッシュフローが資産の実績に依存するものでない限り、負債を支える資産ではなく、負債の性質に依ります。

将来のキャッシュフローの期待現在価値およびリスク調整は、各評価日に再測定されます。残余マージンは、負債¹の非常に大きな部分となりうるもので再評価されませんが、償却コスト・モデルと同様に商品の期間にわたり償却されます。IFRSの下では対応するハイブリッド資産測定モデルはなく、公正価値および償却コスト (この利用は極めて限定的であると思われる) のみのため、資産と負債の会計上のミスマッチによる収益のボラティリティがあるでしょう。ボラティリティに加え、クレジット・スプレッドのうちデフォルトに関する要素はほとんどの資産評価に反映されますが、負債に用いられる割引率には反映されないという違いによる影響があるでしょう。

新契約費の取り扱い

なぜ残余マージンが負債の重要な部分になるかという主要な理由の一つは、新契約費の取り扱いによるものです。提案されているモデルでは、新契約費は契約レベルでの増分新契約費とそれ以外とに分かれます。契約レベルでの増分新契約費は、その契約が発行されなければ発生しなかったあらゆる新契約費です。増分新契約費と考えられるコストは、測定モデルにおいてキャッシュフローの一つとして含まれます。それ以外の新契約費は、キャッシュフローから除かれ、そのコストが残余マージンに計上され、経過とともに収入として償却されます。これは、実際にいつ収入を受け取ったかに関わらず、新契約費とその費用の為に充当されたと思われる収入の認識のタイミングに関して重大なミスマッチを引き起こします。多くのコメント提供者は、「増分」は、料率が整合的な契約のポートフォリオに関連して定義することを推奨しています。両審議会は、これが実務でどのように運用されるかに関して懸念を持っています。

1つまたは2つのマージン

IASBは、予想キャッシュフローにおける変動性に対するリスク調整と契約時にあらゆる利益が認識されることを防ぐための残余マージンのある測定モデルを提案しました。同審議会は、特に、残余マージンがゼロまたは理論上マイナスであろう厄介な契約について、負債にリスク調整が存在することに価値があると感じています。FASBは、契約時に利益を生じさせないための穴埋めであるもう一つ別のリスクマージンの信頼性および比較可能性を疑問に感じていることから、単一マージンのアプローチの方を好んでいます。彼らは単一の複合マージンを好みます。コメント・レターおよび円卓会議によると、欧州保険業界は、2つのマージンによるアプローチの方を好み、米国保険業界は単一複合マージンのアプローチの方を好んでいるようです。欧州保険業界が2つのマージンによるアプローチの方を好むのは、負債にリスクマージンが含まれている一方で残余マージンを含む必要が無いというソルベンシーIIの下で求められる2つのマージンによるアプローチと整合的であるためだと考えられます。

1 IASB公開草案の潜在的影響調査が、米国アクチュアリー会により実施されました。この結果は、商品によっては残余マージンが負債の大部分となるかもしれないことを示しています。調査報告書は、下記サイトをご覧ください。http://www.soa.org/files/pdf/research-2010-12-fr-insurance-contracts.pdf

収益の表示

両審議会は、収益を表示するために要約されたマージン・アプローチを提案しました。これは、大きくは両審議会が提案した評価モデルによるものです。主な要素として、下記が含まれます。

- リスクのリリースと、残余マージンまたは複合マージン
- 保険契約開始時の損益
- 増分とはみなされない新契約費
- 実際キャッシュフローと予想キャッシュフローの差
- 将来の見込みおよび割引率の変化

提案された業績報告は、保険料、保険金、経費を含まないというものが、これらを別様式で開示資料に載せるべきであるとしています。多くのコメント提供者は、何らかの利源分析が一般に行われているとして、マージンを業績報告書に表示すべきであるとしています。しかし、キャッシュフロー自

体を主要報告書から削除することには反対しています。拡大されたマージンの表示が多くの関係者を納得させられる可能性があります。受け入れ可能なソリューションはまだ提案されていません。

収束

プロジェクトがここに至るまでには多くの進展がありました。両審議会は、今後も本プロジェクトに協力することで合意していますが、同じ最終結果を出すことについての合意はありません。IASBは、基準を作成する必要があり、U.S. GAAPで代用する考えはありません。FASBは、すでに包括的基準を持っているため、保険に対する代替測定制度を構築しなくてはならないという同じプレッシャーはありません。FASBは、提案された新たなモデルへの大転換ではなく、既存のU.S. GAAP要件の改訂を目指す可能性も高いです。しかし、目標とするこれらの改訂は、今後6ヵ月間にわたる再審議からは大きく外れるかもしれません。両組織のスタッフおよび審議会メンバーは、上記事項の解決を支援する構成員からのインプットに耳を傾けています。

本ペーパーに記された内容は、著者の見解を示すものであり、ミリマン・インクを代表した見解を表明するものではありません。ミリマンは、ここに示した情報を認証したわけでも、その正確性、完全性を保証したわけでもありません。当該情報は、読者自身の判断でご利用いただくものであり、その正確性、完全性に関する独立したレビューをせずに依存すべきものではありません。また、ここに掲載されている内容は、ミリマンの同意なしに複製することはできません。

Copyright © 2011 Milliman, Inc.